

大志を育む



令和5年9月28日
(教職員向け)
教育委員会だより
No. 54

発行：北広島市教育委員会

「小中一貫教育」の充実発展 “子どもたちのため”に、“原点”に立ち返る！そして、CSを基盤とした取組に！

教育部理事 鹿野秀一

平成30年度から北広島市全小中学校でスタートした「小中一貫教育」が、今年6年目を迎えています。令和3年度には、コロナ禍ではありましたが、「小中一貫教育全国サミット in 北広島」を開催・成功させ、全国から高い評価を得たと同時に、新たな課題等について整理することができました。

この5年余りの期間、各中学校区では様々な取組が展開され、「北広島市学校教育の推進方針」に掲げている「小中一貫教育」が確実に一歩ずつ漸進していることに喜びを感じます。私は、平成27・28年度に北広島市教育委員会教育部次長を務め、「北広島市小中一貫教育推進基本方針」の完成に携わってきましたので、なおさらです。

さて、教育界は、新型コロナウイルス感染症の流行をきっかけに、あるいは対話型 AI の開発や技術革新が進み、何が起ころかわからない「VUCA 時代」を迎えていると言われていています。この先が見えない変化の激しい時代にあって、現状維持に固執するばかりではなく、これまでの変遷を見つめながら原点回帰する視点をもつことも大切であることから、初心に立ち返って、本市が進める「小中一貫教育」のねらいや目指す姿についてみんなで再確認し、“子どもたちのため”の実践を創り上げていきましょう！

北広島市 小中一貫教育のねらい

① 学校、家庭、地域が一体となって「子どもの連続した学び」を支える体制を構築し、義務教育 9 年間で修了するに相応しい「生きる力」を育成する。

- ① 中学校区の学校同士で情報の共有や連携・協働はできているか？ 家庭・地域と連携・協働した教育活動になっているか？ コミュニティ・スクールを基盤とした9年間の学びを確立しているか？
- ② 「連続した学び」について全教職員・家庭・地域で共通した認識となっているか？ 教育課程の中で系統性や連続性、重点化等が明確に示されているか？ 実践されているか？
- ③ 校区の子どもたちのよさと課題を踏まえて「つけたい資質・能力」を明確に示しているか？ 共有しているか？ 「つけたい力」を育成するための手立て・取組を検証しながら、改善・充実させているか？

キーワード	現在実践している取組 (例)	大切にしなければならないこと
「学びをつなぐ」	○系統表・カリキュラムの編成・工夫 ○「スタンダード」の確立・一貫した指導 ○乗入れ授業・出前授業・教科担任制 ○ICT の発達段階に応じた活用 ○中学校体験登校 ○各種調査結果の小中協働での分析 ○ICT 活用推進計画に基づく段階的・系統的な活用	□つけたい資質・能力を明確にし、その達成のために、9年間の系統性・連続性を確保した教育課程を編成・実施すること。 □9年間の学びの重点や系統性を明らかにした教科系統表を作成し、実施・検証・改善すること。 □小・中学校教員の合同研修会等を通じ、教員の授業観・指導観を一貫したものにすること。
「大志をつなぐ」	○「大志学」全体計画・指導計画作成 ○「夢ノート」の活用 ○中学校教員による小学生のキャリア教育 ○ふるさと学習、地域教育資源を活用した体験学習	□「夢ノート」の教育課程・年間指導計画への位置づけと、夢を育む一貫性ある大志学の推進。 □ふるさと学習・教育資源を活用した体験等、多様な教育活動による自己有用感・社会性等の育成。
「人と人をつなぐ」	○異学年交流、児童・生徒会による合同活動 ○部活動体験 ○教職員合同研修 ○CS での小中協働活動(挨拶運動・防災教育・キャリア教育・合同検定他)	□豊かな人間関係を醸成する児童生徒の交流活動の創造・実施。 □校種を超えた教職員の協働と学校・家庭・地域が一体となった教育環境づくり。 □コミュニティ・スクールを基盤とした協働関係強化。

時に勘違いして「手段」が目的と捉えられ、「何か実践をしていけばいい」という感覚に陥ってしまいます。「何のために、どんな活動をするのか」…その活動の目的や理念を明確にして、実践していくことが重要です！

西の里中学校区小中一貫教育の取組

西の里中学校区では、総務部会、13の教科・事務部会、4つの作業部会（教務部会・研修部会・指導部会・総合キャリア部会）を組織し、小中一貫教育の「漸進」に向けた教育活動を推進しています。

今年度は、7月の土曜授業日を「小中一貫教育の日」に設定。小学校・中学校ともに学習参観日としたばかりでなく、学校便りで地域の方にも呼びかけて、小中一貫教育ならではの授業の様子を公開しました。

西の里中学校区
小中一貫教育の日

全校保護者参観に加えて、地域の皆様にも授業を公開しています
令和5年7月22日(土) 3校時(10:30~11:15)

学年・学期	教科	内容	場所
1年1組	学芸	お楽しみ会をひらこう (学年レクリエーションで盛り上げます)	体育館
1年2組	音楽	夏を楽しくむくふう (製作した提灯は西の里中学校区夏祭りでも飾られます)	2号1教室
2年1組	音楽	夏を楽しくむくふう (製作した提灯は西の里中学校区夏祭りでも飾られます)	2号2教室
2年2組	音楽	夏を楽しくむくふう (製作した提灯は西の里中学校区夏祭りでも飾られます)	2号3教室

小中一貫教育の日～コミュニティ・スクールの活動も合わせて～

(1) 小6中学体験授業の様子

中学校の英語の先生に小学6年生を指導していただきました。英語の学習として役立つことを教えていただいたほか、中学校の先生との出会いが進学に向けての意欲につながりました。参観していた6年生の保護者からは、「親も含めて、中学校への意識が高まった」「中学校の先生を知るよい機会になった」との声があがりました。



6年生以外の保護者にも参観していただけるよう Meet で教室と音楽室をつなぎ、モニター視聴できる環境を整えました。

(2) 中学校授業におけるチーム・ティーチング

小学校教員がT2として中学校の授業に加わりました。T2として間近に授業を見ることで、生徒の小学生時代の様子と重ねながら着実に力を付けている点や、中学生になってもつまずきやすい点などを実感することができました。これらの気づきを小学校で授業する際にフィードバックしていきます。



(3) 地域との連携（地域行事への協力）

小学2年生では、地域からの要望があり、夏祭りに飾られる提灯を制作。ゲストティーチャーとして夏祭り実行委員の皆さんにご協力をいただきました。制作では保護者と一緒に行う作業も…。児童・保護者・地域が三位一体となった授業でした。貴重な制作体験となった上に、夏祭りでは全員の提灯が飾られて会場を彩り、小学2年生の夏の忘れられない思い出となりました。



中学校では美術部が夏祭りのポスターを作成しました。地域の各所に掲示されて夏祭り告知に役立ったほか、たくさんの人に見てもらい、生徒たちにとって喜びとなりました。



(4) 【研究の一本化】「自ら進んで学び、思いを豊かに伝え合う児童生徒の育成」を共通した研究主題に掲げ、発達段階に応じて、小学校では「子ども同士をつなぐ“ICT活用の工夫を通して”」を副題に、中学校では「生徒の活動時間を確保した授業づくりを通して」を副題にして、研究を進めています。小中一貫教育合同研修会の際に両校の研究内容の交流を行っているほか、研究授業の参観等を行っています。

